

脊椎の外傷の様相は、筆者が研修をはじめた1980年頃から35年余の間に大変大きく変わった。人口年齢構成の推移もあり、また交通外傷などに関しては、自動車安全の進歩や、交通事故防止政策の普及、労働安全監視の徹底、またさらには体質的な変化も血管損傷を合併したときの解離などの病態においては関与している。何といても画像診断が進歩したことにより、診断が確実に進歩し、徹底し、治療においてはインストラメンテーションの進歩、普及により様相が大きく変わった。4年間の東京大学と関連病院での脳神経外科研修後にアメリカのメイヨークリニックにレジデントとして留学した当時はまだMRIは臨床実用化以前であったし、CTももちろんヘリカルスキャン以前であった。スライスの薄い軸状断面から矢状断が再構成されることが新鮮であった時代である。脊椎損傷に関しては、主たる診断方法は基本的には単純X線であり、脊椎内の病態変化に関しては神経学的な診断評価に頼るばかりではなかった。ミネソタ州南部にあるメイヨークリニックとその傘下のセントメリー病院は当時からヘリコプターを備えた一大救命救急センターを有していた。アメリカ中西部は広大な農耕地帯であり、大きな農業機械が用いられていてトラクター外傷やサイロ高所からの転落などがあり、浅いプールでの飛び込みに伴う損傷、軽飛行機の着陸時の事故に伴う胸腰椎移行部骨折、大口径の銃弾が脊柱管内に迷入するというケースなど、日本とは様相を異にするハイ・インパクト機転による症例を多く経験した。また、銃による脳損傷にも詳しくならざるを得なかった。こうした中で、日本から渡った当初は大きな違いを眼前にして、当直の際には救急部と放射線科で右往左往したものであるが、なんとか読影力と所見を伝える能力を得るために懸命で、脊椎外傷のX線診断の教科書を図書館で借りて何回も読んだのを思い出す。

最近国内においては、大きな交通外傷は比較的減っているものと思われる。県の高度救命救急センターとしてヘリコプターを備える大学病院で勤務しているが、自動車運転者あるいは乗員の大きな外傷事故は減少しているのが実感である。しかし一方で、軽自動車事故、若者のオートバイ無謀運転に起因する事故、歩行中や自転車乗車中の、ことに高齢者が被害者になるケースが少なくない。脊椎の外傷では、相対的にいけば増えているのが、高齢者に多い骨損傷を伴わない脊椎損傷であろう。古典的に「中心性」脊椎損傷といわれるものである。以前に筆者が本誌で編集責任者となって「中心性脊椎損傷」の特集を行ったことがあり(21巻5号)、その中で病因論についても多くの考察を取り上げた。臨床像の特徴である上肢末梢に強い運動障害ならびに知覚過敏、下肢の麻痺の回復傾向は中心部における強い脊椎循環障害に帰せられてきたが、C4/5/6において過伸展屈曲による脊椎損傷をきたしやすいことと、そしてその高位の灰白質が白質よりも不可逆的な変化を被りやすいことが特徴的臨床像を形づくるうえで重要と考えている。

ひるがえって、本特集号においては、脊椎の損傷例の救急の入口のケアから画像初見ならびに標準的処置法、血管障害などの合併症、そして急性期治療後のリハビリテーションや係争予防対策に至るまで、包括的な内容となった。多くの若い脳神経外科ならびに整形外科レジデントにとって備えておくべき一冊となるものと信じている。優れた原稿をお寄せくださった多くの著者の先生方に心から感謝する。

(金 彪)

# 脊椎脊髄ジャーナル

## 編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹  
高橋 昭 金田清志 小山素磨  
小柳知彦 田代邦雄 国分正一  
服部孝道

## 編集委員

戸山芳昭(編集委員長)  
青木茂樹 安藤哲朗 金 彪  
園生雅弘 高安正和 田口敏彦  
谷 論 徳橋泰明 花北順哉  
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志  
米延策雄

Vol. 29 No. 4

(2016年4月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価(本体5,400円+税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店  
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2015,

Printed in Japan

**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。